北から南から

飽きさせない防災訓練を目指して
～西崎ニュータウン自治会自主防災会の取組～

沖縄県糸満市西崎ニュータウン自治会自主防災会
副会長　古我知　進

1 はじめに

沖縄県糸満市は、沖縄本島最南端に位置し西に東シナ海、南は太平洋に囲まれております。その中でも西崎ニュータウンは埋め立て地で、糸満市の西側の海沿いに位置しております。

自治会は、全252世帯（約700人）で構成しており、おおよその平均年齢は67歳と高齢化が進んでおります。

周辺の環境は、海抜は3.2ｍと低く、近くに報得川の河口が存しております。また、地域の高齢化が進んでいることから、避難対応へのさらなる工夫を考える必要があり、市や関係機関と連携しながら取り組んでおります。

2 取組状況

平成７年１月の阪神・淡路大震災を契機として、自主防災組織の重要性が改めて認識されました。当自治会においても防災対策について打ち合わせを重ね、平成20年４月に自主防災会を発足させ、防災資機材や備蓄食料の整備等、着々と整備を行っております。

当初は、基本的で単調な避難訓練を繰り返し行っていましたが、同じ訓練を続けるたびに参加人数が減っていきました。最初はどんなに熱意がある地域住民も、単調な訓練ではマンネリ化してしまい、訓練の度に参加者が減っていきました。そこで私は、毎回参加する者も飽きさせないよう「飽きさせず、継続できる防災訓練」を新たなモットーに掲げ、防災紙芝居、防災マジックショー、セラピー犬との触れ合いなど、子供が参加しやすい様工夫を凝らしました。子供たちが参加することで、親も参加してくれると考えたからです。

併せて、避難訓練、避難所設置・運営訓練、災害救助犬による捜索・救助訓練、夜間避難訓練など、実践的な訓練も行いました。

さらに、車椅子の住民や移動に時間を要する高齢者のため、市の津波避難ビルよりも近くにある地域の民間アパートと独自に「津波時の避難場所に関する協定」を締結し、緊急時に避難できる体制を整えました。

また、高齢者対策として、避難に配慮が必要な要配慮者の支援名簿も整備しました。今後は、より細やかな個別避難計画の策定を行っていきたいと考えております。

3 成　果

発足当時は、後ろ向きであった住民から心無い言葉を受けるなど防災に関する意識の地域内の温度差がありましたが、活動を重ねることで着実に「自分の命は自分で守り、自分達の地域は自分達でしっかり守る」という意識が住民の中に芽生えていきました。これは、平成29年度に実施した住民向けのアンケート結果に反映されており、地震・津波災害時緊急避難ビルの認知度が99％であったことや、

85 点の防災資機材を整備

セラピー犬との触れあい

独自で津波避難ビル協定締結

地震・津波避難訓練

訓練に参加することで重要性を知ることが出来た旨の回答が 9 割を超えたことから、ほぼすべての住民に自主防災組織が認知されており、意見・感想では、当自主防災会の存在に高い評価を行っている回答も多かったことから、住民の防災意識が飛躍的に向上していると感じました。

これまで 10 年間継続してきたことが実を結び、地域の子供達も大人になり、当時から行ってきた防災意識が地域に根付いてきていることも大きな成果であると感じております。

4 あとがき

「天災は忘れた頃にやってくる」という有名な言葉がありますが、最近は、忘れる間もなく地震や集中豪雨などの災害が起きているような気がしてなりません。被災地等での教訓から、避難誘導や救出・救護、避難所開設・運営、炊き出し等の活動等は、自主防災組織の役割がますます重要になってきているように感じております。

私は県内外を問わず、これまで約 75 か所で講演させて頂きましたが、講演の中で、「自分の身は自分で守り、自分達の地域は自分達で守る」というフレーズをよく使用しております。これは住民の「ゆいまーる（隣保共同）」精神を培い、自発的に行動できる自覚と連帯感をより高めて欲しいという願いを込めているところです。これからもこれを伝え続けながら、地域の防災力の向上をサポートしていきたいと思います。